

## 障害当事者こそが変える！人手不足の介護現場

土田 浩敬

兵庫頸髄損傷者連絡会

### 1. はじめに

みなさんこんにちは。今回、一般社団法人日本リハビリテーション工学協会（以下、リハ工とする）中国四国支部主催で開催されたセミナー「障害当事者こそが変える！人手不足の介護現場」に障害当事者として参加しました。

### 2. 概要

日 時：2021年6月26日（土）13時半～16時

会 場：オンライン zoom

プログラム：

- ・開会のあいさつと企画への想い
- ・人材不足とノーリフティング
- ・当事者からの発信 1～3
- ・参加者でディスカッション

主 催：日本リハビリテーション工学協会  
中国四国支部

### 3. リハ工支部オンラインセミナー

私は高位頸髄損傷者で全く両手足を動かすことが出来ません。

日常生活はチンコントロールタイプ（顎で車椅子を操作する）の電動車椅子に乗って生活しています。そんな私もヘルパーを利用しながら生活していますが、自分にとっては大切な存在です。介助者不足というのは、私にとって大変重要な問題です。

開会のあいさつと企画への思いを中国四国支部の谷口公友氏から始まりました。そしてこれまでの活動内容も説明されました。

それから、ナチュラルハートフルケアネットワーク

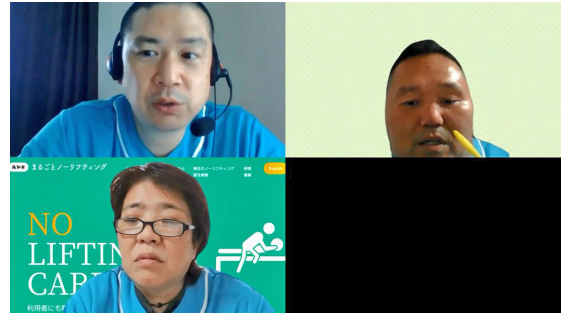


図 1

から代表の下元佳子氏から、ノーリフティングの必要性を分かりやすく伝えられました。活動地である高知県で地道な活動からスタートされて、現在では県を上げてノーリフティングに取り組まれる様子が印象的でした。

同じ頸髄損傷者で、以前からもよくお世話になっている鈴木太氏の福祉用具を活用されながら、これまでの軌跡と現在の生活の様子を話されました。私も福祉用具を利用しながら生活しているのですが、介護リフターやスライディングシートを、私とは違う使い方でおかつ有効的にされる動画を見て、私の中にあった既成概念がよい意味で崩されました。便利な福祉用具を効率よく活用していければ、介助者の負担も減ってくるのではと思いました。

他にも、介護リフターを使って家の中を自由に移動されるお子様の様子は、心が和むものとなりました。介護リフターを使ってでも、家の中を動き回るこの経験は将来に繋がる取り組みだと感じました。

### 4. まとめ

福祉用具は便利に利用出来て、介助者の体への負担を軽減させてくれるものでもあります。人手不足を本気に考える障害当事者であれば、介護に負担なく出来る限り福祉用具を便利に利用していきたいものです。

兵庫頸髄損傷者連絡会